

ファントムオブ汁2ndバイブス

with totoパック



DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

キ○姫えっちでスツキリ！

キル姫を従えるマスター

無数にいるマスターの中には、当然しょうもない奴も居て…

これはおっぱいが好きなしょうもないマスターと、

ししゅんきまっ盛りなのにキル姫がたくさんいる

隊に放りこまれたtotoくんのセックスまみれの生活

「マスター、すぐ我慢できなくなっちゃうね。」

はい、どうぞ

むっ

むっ

ずん



「ふふ、マスターも男の子だから、

仕方ないよね。

どう、ダグダのおっぱい、

気持ちいい？」

にゅっ

にゅっ

ずば

にゅっ



「んっ…そんなに焦らなくても大丈夫。

がっつきますぞ」

にゅっ

ぬゅっ

にゅっ

ずん

ぬゅっ

にゅっ



「あは、いっぱい出た…」

胸の中にびゅくびゅくって

すっごい熱い」

びゅくびゅく

びゅくびゅく

びゅく

びゅく



「またいつでもも言ってね

マスターのお願いだったらダダ

なんでもしちやうんだから……」

おは

おは

おは

おは

おは



「ま、また朝からこんなにして……！」

他の姫にいやらしいことをしないようにに

しっかり抜いておかないと……！」

んん

んん

むじゅっ

「もうっ、私だつて

好きでやってるんじゃないんですよ？
少しは自制してください」

もう……

ぐん

ぐん

むじゅ





「んしよっ…マスター！ そろそろ出ますか？
はやく済ませてください！」

ぐい

ぐい

むじゅ

「…っ！やっつと終わりましたか…」

またこんなに溜めこんで…

本当にいやらしい人ですね』



んっ
んっ
んっ

んっ
んっ
んっ

んっ
んっ
んっ

「他の姫に迷惑かけたらだめですからからね。」

溜まったらすぐに言うんですよ

いいですね？」

ドキ

ドキ

ぴゅん

ぴゅん

ち

ち



「ほら、いつもものするんだろ？」

「よっくらせつと...」

あち

あち

あち



「たく、私をジロジロいやらしい目で見やがって
戦闘中も気になって仕方ないよ」

あはは

ぬま

ぬま

あはは

ひんげん

「なんだよ、びくびくって震えてるぞ」

「ほら、気持ちいいんだろ？出しちまえよ」

早くこい

おっぱ

おっぱ

おっぱ

おっぱ



「わつととと…すごい勢いだな…」

「そんなに私のが良かったのか?」

びき

びき

びき

びき





「びゅっくびゅっくうっ、おもしろえ
こんな溜める前にさっさと私に頼めよなー」

あつ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

ぎょい

「我を選んだことを褒めてやろう
槍の扱いなら任せておけ」

あーん♡



「それにしても、たいそうなものだな……
普段からこんななしているのか……?」

お……

びん

びん



「なに？…もうちよつと激しくだど？
どれ…こんな感じか」

あゝ

びん

びん

ぐんぐん

ぐんぐん





「.....!」 こんなに出るものなのか

わわわ...っ」

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

「すつきりしたか？」

苦しむ前に我に相談するのだぞ。

わかったな？」

うむっ



【新システム：姫売春】

ゼニーを稼ぐ手段に困窮したマスターが編み出した神の一手
放っておくだけでゼニーがもうかる魔法のシステム！

※使った姫は以後戦闘に使えません

「んんっやめなさいっ！」

なぜあたしがこんな目に…!!

んんんっ！」

ぢゅ

ぢゅぢゅ

「うるせえ！こらいう商売だろ？」

大人しくしやぶって気持ちよくしろい」

「んんっやめなさいっ！」

なぜあたしがこんな目に…!!

んんんっ！」

くぱっい

ほっい

「うるせえ！こらいう商売だろ？」

大人しくしやぶって気持ちよくしろい」

「おっ、 おお、 これはいいぞ……」

どこのお嬢様か知らねえが、
たっぷり可愛がつてやる……！」

ほっ

ん

ん

ほっ

ん

ん





びしょ

びしょ

「くおっ、おとおおとおおおっ...!!
それ、全部飲み...っ」

びしょ

「こんなお嬢様にしやぶらせてっ」

「一発一万ゼニーじゃやすいもんだぜ。」

ぐわっ

ゴッ

ゴッ

「そこらへんの金塊と変わらねえ

価値しかないしな

うひひひ」

一応隠れては行っていたが、
マスターと姫の行為を見せつけられてしまうtotoくんは
常に勃起しっぱなしの毎日を送っていた…
男の子の気持ちを誰よりもわかるマスターは、
隊の姫にtotoくんとHしてあげるように指示！
これが以外に立派なものを持っていて…
竿に対して姫が多すぎるこの隊では需要があるようだ



「可愛い私とえっちしたくなっちゃったんですのね？
いいですわ、来なさい…」

ぷんっ

おんっ

「イ、インシューリエルっ。。。ああっ。。。！」



「中々いいものをお持ちですね、
こんなを固くして…」

「どう？気持ちいいでしょ？んっん、あっ…」

ゴッ

んっ

んっ

ゴッ

「ぎ、気持ちいい！キル姫とセックス…！」

んっ

んっ



「んんっ、んんっ……中に、

たっぷり出しましたわね……？

前触れもなくこんなに出すなんて……うあんの……」

ンんん

んん……

ズンズンズン

「……あはは……あはは……」

ズンズンズン



「もう、今までこんなを溜めこんで...らけませんわ
これはしつかりお世話して下さいしあげないと」

ほーんんん...

ほーんんん...

「はあ、はあ...セックス最高...」

んんん...

んんん...



不毛

「ほら、おいで。可愛い人

お姉さんが可愛がつてあげるからっ……うんんっ……！」

きん

きん

おっ

うんん……

「うあー！おっぱい揉ませてー！」

おち○ちんも入れるよっ……うあああ」



ぽんっ

ぽんっ

ぽんっ

ぽんっ

ぽんっ

「もう、あんまり乱暴にしちゃだめよ？
あ、つく、おっきいわ…」

うんっ…

「はあっはあっ…！ごめんなさいっ、じせおっ！」



「ん？なあに？もう出ちやいそうなの？
だめよ、もっと太いので感じさせて」

「と、とまれないよう、きもちよすぎで……
だめだあ！もう出ちやうっっ」

ぽんっ
ぽんっ
ぽんっ
ぽんっ



「うんっ、うんっ……！」

「あつ、あん……！しよがない子ね……
そんなに気持ちよかったの？」

びしょ

びしょ

ぎゅ



「まあいいわ、許してあげる…
辛かったんだもんね？よかったわね」

「ううう…カラダポルダ…
はあ、はあ…」

はち

はち

もみ

もみ

はち

はち



「あの人がお願いするから、仕方なくなんだからねっ
特別にさせてあげるんだから…んっ」

「くっ…うあっ…なにこれ、ぐいぐい締めつけて…」

「ぐいぐいぐい」

まじっ

んっ

おっ

おっ



「ちよ、ちよっとー？あ、あなたの、デカすぎ……！
なんでこんなに大きいのよー？」

「知らないよお！ああつ、気持ちいい……！」

まじっ

まじっ

おっ

おっ



「気持ち、いいでしょ？他の女と一緒にしないで
締め具合は私が一番なんだから」

「今までセックスした中で一番…っ
欲しい、このま〇こ欲しいよお！」





「だ、だれがあなたなんか、のっ……!?
んぐっ……んんんんんんっ……!」

「うあつ。ば、芭蕉扇っ、中に出すよっ!
と、とまらないっ……!」

グツ

ゼン

ゼン



「…はあ、はあ…中々、やるじゃない
気が向いたときに肉パイプにしてあげてもいいわよ
光栄に思いなさい？」

「この余裕な笑み…孕ませたいっ…くうっ…」

ドクドク

ザッザッ

ザッ

ドク

ザッ

「ちよつと、トト……こんなところ……」
あんっ！」

ぽんぽん

ズ
ズ
ズ

ド
キ

「ご、ごめんフォルカス…我慢、できなくてえ……！」





「マスター、すぐ我慢できなくなっちゃうね

「もう…本当にしようもない子…っ
わかったから、早く済ませて」

ばん

ばん

ばん

ばん

ばん

ばん

「はっ、はっ…！気持ちいいよ、
フォルカスう！」



「それは、よかったですね…
大きくなって…トト、もう出そうなの？」

ん

あ

ん

ばん

ばん

ん

ん

ん

ばん

ん

ん

ばん

「うああっ！うううううううううう……！
はあ……気持ちよかった……ありがとう」

あ~~~~

「んっ……いえ、これもマスターの命令だから……」

突然だとビックリするから、
今度からは事前に言ってね」

ブルッ

ドブ

ドブ

「うん、うん……！」



END...?

おまけに続く!

イミテーション編

本編のその後…

たいして訓練もせずに、セックスまみれの隊に
厳しい戦闘を行えるはずもなく…

大量のイミテーションによる襲撃を受け、淘汰が行われた。
淘汰された個体は相手の記憶と経験を引き継ぎ、新しい個体となる…
関係は続いたが、愛は歪み、パワーバランスは崩れる
結局なにがあってもやることは同じだった…

「ふふ、ダグダ知ってるんだから

マスターがおっぱい好きの変態さんって…

どうう？イキそうう？」

えへへへ
にゅん

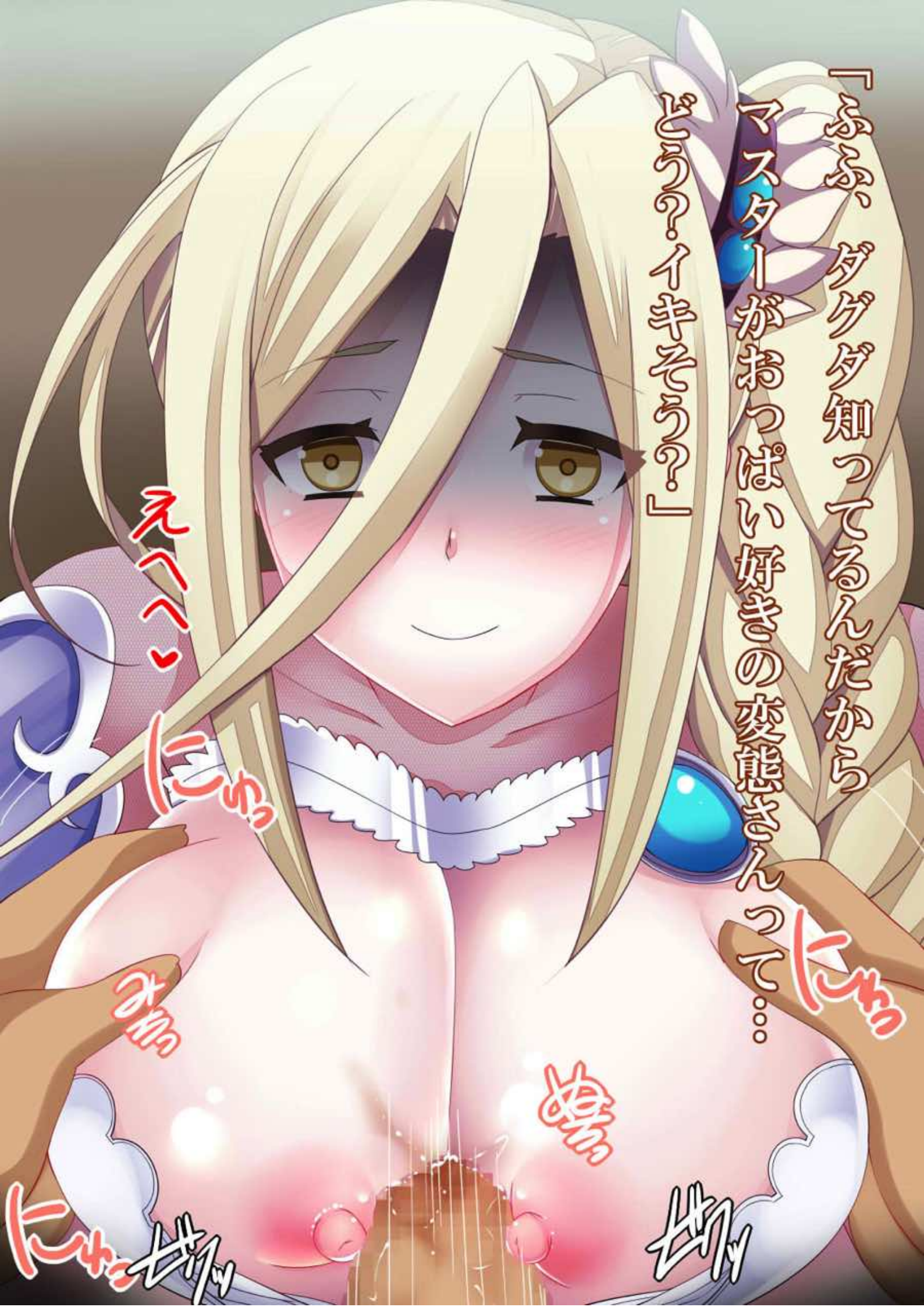
にゅん

にゅん

ぬん

にゅん ぬん

ぬん



「ふふふ、ほら、こうやって挟まるとすぐ…
そんなにかクカク腰振って、
みつともない」

カク

カク

カク

ちんぽ

ちんぽ
ちんぽ

「あああ…すごい量…
部下のキル姫に下の世話までさせるなんて…
本当にしようもない変態ですね」

あ…

ドク

ピュ

ピュ

ピュ

ち

物

…

ドク

「へへへへ、いけないねえ。こんなにして…
いつも溜まってるんだろ？抜いてやるって」

はっ
はっ

おまんこ

はっ
はっ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

ひんげん

「あはは、もうイキやがったのか!

なっさけないねえ...

次はもうちよつと耐えてみるよ...?」

ん

ん

ん
ん

ん



「どれ、記憶に基づき我が処理しよう

安心せよ、お主はただ寝てるだけでよい…

んっ…」

びん

びん

いっしょ

いっしょ

ぐいっしょ

ぐいっしょ



「こうやってここを刺激すれば…ほれ

アホみたいにとびゅどびゅ出しおつて…

ふふふ、愛おしいな…」

ゴックン

ゴックン

ゴックン



「嬢ちゃん前とちよつと変わったか？」

まあいいや、

おまえの仕事をしろ」

ほっ

ん

ん

ほっ



「おっふうろう…すつきりしたあ…

ザー汁捨てるなら無駄に

育ちの良いお嬢様に限るわー」

あ…

あ…

あ…





「可愛い私がわざわざ

セックスさせてあげてるのですよ？」

「ありがたく思いなさいなっ…あ、あっ…ふっど…！」

「うあっ…あっ！いわれなくてさっ
こんななたまらないよ！」

ゴッ

ぷんっ

たん

ゴッ

みん

たん

たん

たん

たん



「本当に大きさも量も凄い量ですわ…！」

まっ、これも私のナカがよすぎるに決まっていますわ

これでトウルース」

ほー

ほー

ほー

んんん…

「きもちいいいい…！」

ねえ、イシユトリエル、もう一回ら…」

んんん…

ほー

ほー



「ほら、だめよ？
休まずに腰をガンガン振りなさいな
自分だけ気持ちよくなつてないで、私もイカせて？」

「あぐっ！痛いよっ！でも、気持ちいい……」
「もっふもっふ……ごめんな……」

ぽんっ

ぎゅっ

ぎゅっ

ぽんっ

ぽんっ

ぽんっ



「ああっ…んんっ…！」

そんなにくりくり子宮に押し付けて射精して…

はらんじゃうかもお…ああああ…っ」

はま

はま

もみ

もみ

「ぎ、うあっ、ああああっ！絞り取られてっ…！…？
射精とまんないいいい！」



「奴隷の世話をしてあげるのも正室の務めよ♪
ふふ、やっぱあんたのはふっといわねえ…?」

「はあっ、はっ！気持ちいいよっ、芭蕉扇っ
な、なかにつ出すよっ?」

うん
うん
うん



「何気安く呼び捨てにしているの！」

芭・蕉・扇・様！でしょ？

身分を弁えないと、もう一生させてあげないわよ」

「うあっ！申し訳ございませんっ芭蕉扇さまあ……！」

ああっ、くっ、中出し気持ちいいですっ……！」



ドク

ドク



「私の氷はキル姫の動きですら鈍らせる。

人間の貴方は頑張って腰振らないと

凍死しちゃいますよ。

「トト...」
「あゝ」
「あゝ」
「ポッポッ...」

「トト...」

ツギツギ

カタ

カタ

あゝ

あゝ

あゝ

ツギツギ

「さ、寒くて、凍るっ...もうゆ、許してえ！」

でも、フォルカスの中、あったかくて、

気持ちいい...！」

「もう腰しか動かないっ……ああっ、でるぞ……」

ブルッ

あーっ

「ああんっ……ん、くっ……あああ……」

命の危機を感じると生殖本能が高まるって本当だったのね……
ねえ、これでもまだえっちしたいの？」

「………したいッ！」

セックスで暖を取れば……っ！

あう……あ……っ！」



おしまい

